

蒲生を想う

らし、忙しさにかまけて帰省も年に2度くら させる。 で過ごした若き日々が記憶のひだを活性化 い。しかし63年の人生を振り返るたびに蒲生 たのは22年弱であろうか。今は遥か東京に暮 蒲生に生を受けて60余年、その内蒲生に居

出た22歳以降の方が、厳しく、辛く、或いは成 も思い出はいつも蒲生である。 功し、印象深い体験も多いに違いない。それで 覗く白い骨、流れの緩やかな川の淵に潜り丸 たまた岩場で転んでぱっくり開いた傷口から た赤い柿の実や、段々畑の黄金色のみかん、は ているように細部まで鮮明に思い出す。 がくシーンなどなど、まるでハイビジョンで見 網で絡め採った透明な川えびが網に絡んでも 白男の山中深く、古木に熟してぶら下がっ

蒲生のあちこちに父の関わった施設が残って 兄弟が現役の町会議員である。 ても活躍し、それは伯父が引き継ぎ、今は従 して地域に貢献していた。また町会議員とし 父は建築・土木業に関係していたが今でも 祖父は地主や山主として或いは殖産業と

い。これからは先祖を含めてお世話になって とは紛れも無い事実であり、変わることは無 の住む鹿児島市で暮らしている。 さすがに寄る年波には勝てずこの5月から弟 父の亡き後一人蒲生で暮らしていた母も、 しかし自分の家系のルーツが蒲生であるこ 様々なことが変わり過ぎていく。

人生を切り開く戦いは、若い頃より社会に

の教授に就任。 就任。2008年4月、東海大学工学部 タースポーツ・インターナショナル(N-SMO) 開発などを担当。8~8年ニッサン・モー 産自動車入社。モータースポーツ車両の かきもと・くにひこ 監督を務める。9年N-SMO総監督に に出向し、ル・マン2時間レースのチーム 1945年蒲生町北生まれ。8年4月日 エンジニアとしてラリー車用のエンジン



2007年シーズン終了後、参戦チームのスタッフと 緒に記念撮影。

NISMO総監督

柿元 邦彦

蒲生町町制施行80周年記念座談会

生のまちづくり一を

厚地和幸 (蒲生町長

丸野博和さん(ZPO法人Lab蒲生郷) 松林洋一(司会・総務課まちづくり推進室長) 藤浦清香さん(NPO法人Lab蒲生郷) 浜地克徳さん(ZPO法人Lab蒲生郷) 藤谷亜太可さん(NPO法人Lab蒲生郷理事長) 小山田邦弘さん(ZPO法人Lab蒲生郷)

■NPO法人しab蒲生郷

蒲生町の発展に寄与することを目的とする する事業、まちづくりに関する事業を行い とともに、芸術文化の振興や国際理解に関 きる場を提供し、将来を担う人材育成を図る 民に対して、自然や文化、芸術を体験・体感で ふるさと蒲生に変化を生み出し、地域の住

を含む英単語から採りました。合 意味の「ラバー」、3つの「Lab まっていただき、「蒲生のまちづく ション」、そして「生み出す」という は「実験室」を表す「ラボラトリー」 小山田さんが命名者です。Lab 藤谷 「Lab蒲生郷」の名称は とメンバー紹介をお願いします。 まず、藤谷理事長から名称の由来 り」をテーマに語っていただきます。 Lab蒲生郷のメンバーの方に集 「協働」という意味をもつ「コラボレー 本日は町長とNPO法人



歴史と文化、品格のある町

蒲生町

松林まず蒲生の町のイメージ、 楠を見て、大きなものに包まれて 上とても疲れていたのですが、大 越してきました。当時、仕事の関係 浜地 私は4年前にこの町に引っ ていることはありませんか。 蒲生のここが良いと感じておられ

校されています。 今年4月から蒲生町で楠学園を開 に詳しい方です。小山田さんは小 をされていて、国際交流にも非常 という和風カフェの経営と、デザイ とでLab蒲生郷と名付けました。 う地名を残していきたいというこ 併して市になっても「蒲生郷」とい 山田電器の専務さん。藤浦さんは 木の丸庵でカイロプラクティック ナーをされています。丸野さんは の住職です。浜地さんはZenZai 私は理事長の藤谷です。幽栖寺

> こでも静かに癒される印象があり の方たちの内に秘めたプライドや お武家さんという方が多くて、そ 触れて、歴史の深さや人の優しさ 情熱、優しく奥ゆかしいところに ました。住んでいる麓地域には元々 今住んでいるのは古い家ですが、こ 癒されるような実感がありました。

松林 久しぶりに帰って来られた 小山田さんはどうですか? のですが、やっぱり蒲生町が良かっ 住んでいて日々幸せを感じる町です。 で、町全体での積み重ねでしょうね。 は一朝一夕にできるものじゃないの も伝わってきました。そういう品格 子どもたちを大事にしていること 囲気がある。町民の方は品があって、 わしい場所をいろいろと探していた かな場所という条件で、学校にふさ 市内からそう遠くなく、自然が豊 で、何度か訪れていました。鹿児島 藤浦 蒲生は学生のころから好き た。空気がしっとりしていて、町に雰

がわかってきた気がします。

藤谷 ゆったりしているのは環境 地に足がついているんですよね。 地に足がついているんですよね。 かいこう かったり では植物も人も、 かいこう かったり では がっと は かいこう かったり でいるんです ない しょう は いっとり でいるん でいる かったりしているのは 環境 かったりしているのは 環境 は いっとり しょう は いっとり は できる は いっとり は できる は いっとり は いっ

とす。 とすが、素晴らしいことだと思いますが、素晴らしいろあると思いいない。見方はいろいろあると思いが、蒲生ではその地図で町歩きがが、蒲生ではその地図で町歩きがが、蒲生ではその地図を使ったのです たいですね。

ることの有り難さに気付いていきうね。そんな環境の中で生活できそのものとも関係があるんでしょ

や自然、蒲生の文化を大事にして



います。まずは日本一の大楠を中心に武家通りがある街並みを保存しようと、今年6月に保存条例を出しました。これだけの街並みが残っているというのは、住民の皆さんがそれを大事にしているという町民性だと思う。文化や歴史を大事に性だと思う。文化や歴史を大事にするなら、そこに住んでいるという町民が必要です。住んでいる人が満足できるまちづくりを目指せば、よるから来る方々にとっても良い町る方の意思を尊重したまちづくりる方の意思を尊重したまちづくりる方の意思を尊重したまちづくりる方の意思を尊重したまちづくりる方の意思を尊重したまちづくりが必要です。住んでいる人が満足できるまちづくりを目指せば、よ

最大限に活用 先祖が残した「本物」を

丸野 蒲生の強みというのは地域町にしたいですか?

東リーカリー・カー・カだと思います。退職された方がたくさん帰ってくるから、60代、70代の方々の層が厚く、学ぶことが多い。驚いたのは、10代、20代の若い人たちが地域の行事などにきちんと参加していること。郷土愛の強い人たちをうまくつなげていくのが人たちをうまくつながでいる。と参加していること。郷土愛の強い人たちをうまくつなげていくのがしている。と参加していること。郷土愛の強い人たちをうまくつなげていくのがしている。

浦生の良さにひかれて蒲生

兵也 「莆主こまた南、武家の歴史、しいと思います。 せいと思います。

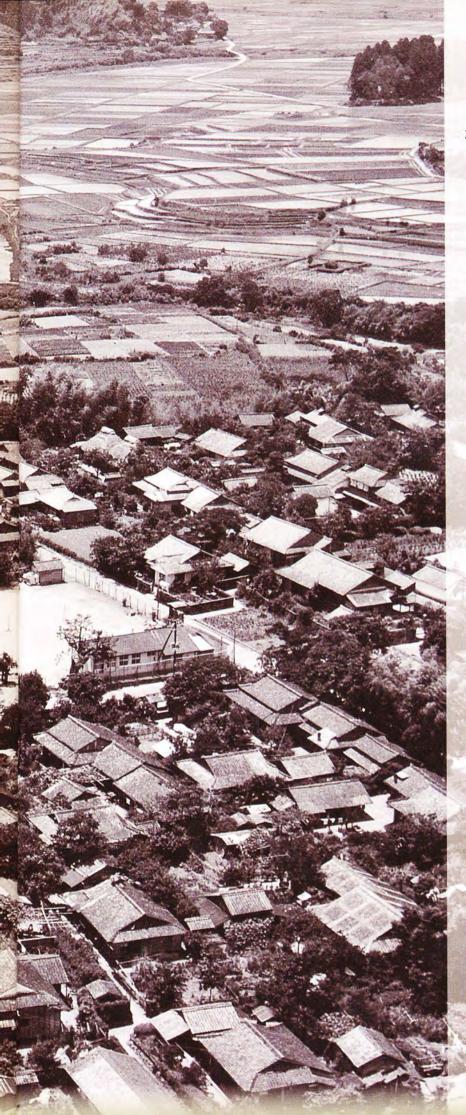
人材といった本物があります。それ人材といった本物があります。それ人材といった本物があります。それを保全して、ちょっとだけアレンジを保全して、ちょっとたければ。そのアレンジはアートやデザイン、音楽だったりするのかもしれませんが、本当にちょっとしたことで本物の魅力は告させることができます。今、お店を出させていただいていますが、あの店も蒲生町の大事な財産ですから、一切手は加えない。その代わり、家具や照明器具を変えるだけで非常に場の魅力が増すんです。





蒲生町は町制施行80周年を迎えました。平成2年(二〇〇八)11月1日、

昭和30年(一九五五)1月1日、山田村の柊野集落を合併し、以来、今日に至っています。村制39年を経て、昭和3年(一九二八)11月1日、町制が施行され蒲生町となりました。名称を廃して蒲生村が誕生しました。 おか村(上久徳村・下久徳村・米丸村・北村・久末村・西浦村・白男村・漆村)の明治22年(一八八九)4月1日、市制および町村制の施行により、







第2代村長 福島 康 明治23年3月-34年8月



初代村長 赤塚 源五郎 明治22年4月-23年3月

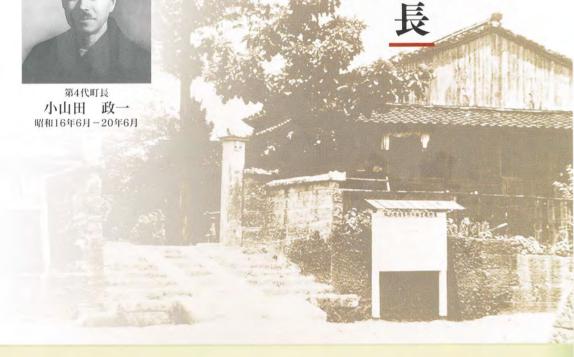


第5代町長 北原 健 昭和20年6月-21年4月





第10代町長 小山田 政弘 昭和36年5月-48年5月





第5代議長 馬渡 義夫 昭和26年5月-28年9月



第4代議長 吉村 正治 昭和26年3月-26年4月



第2·3代議長 石神 鎌造 昭和22年3月-26年3月



初代議長 日高 佐七 昭和21年12月-22年3月



第15.19代議長 小門口 嘉明 昭和62年5月-平成2年4月 平成11年5月-14年9月



第12代議長 池田 章 昭和50年5月-54年4月



第11-13代議長 前村 明 昭和46年5月-50年4月 昭和54年5月-58年4月



第10.14.16代議長 国生 文夫 昭和42年5月-46年4月 昭和58年5月-62年4月 平成2年5月-3年4月



第2代町長 国生 周内 昭和7年3月-12年6月



第6代村長、初·3代町長 赤塚 源次郎 大正7年12月-昭和7年3月 昭和12年6月-16年6月



第4代村長 赤塚 弘 明治36年9月-43年12月



第3·5代村長 **酒乞** 珩 明治34年8月-36年9月 明治44年1月-大正7年12月



第9代町長 森 文雄 昭和28年5月-36年4月



第8代町長 石神 鎌造 昭和26年10月-28年4月



第7代町長 **酒匂 久** 昭和26年5月-26年9月



第6代町長 木原 一夫 昭和21年4月-26年4月



第14代町長 厚地 和幸 平成18年4月-現在に至る



第13代町長 晋 哲哉 平成6年4月-18年4月



第12代町長 塚田 吉夫 昭和57年4月-平成6年4月



第11代町長 池田 正辰 昭和48年5月-57年3月



第9代議長 **脇田 勇吉** 昭和38年5月-42年4月



第8代議長 安楽 光章 昭和34年5月-38年4月



第7代議長 国生 周三 昭和30年5月-34年4月



第6代議長 渡辺 政喜 昭和28年9月-30年4月



第22代議長 **湯元 秀誠** 平成19年5月-現在に至る



第20·21代議長 大嶺 正勝 平成14年9月-19年4月



第18代議長 永野 貞行 平成7年5月-11年4月



第17代議長 外**園 勝美** 平成3年5月-7年4月

蒲生町前史

延暦23年(八〇四)

桑原郡蒲生駅…」)。 『日本後記』に蒲生の名が現れる(「大隅国

藤原舜清が宇佐八幡から下大隅垂水に保安元年(二二〇) 下向する。

保安4年(二二三)

社(正八幡若宮)の建立を手掛ける。 舜清として蒲生城の築城と蒲生八幡神 舜清、蒲生院惣領職となり、蒲生上総介

建長8年(二二五六)

文様 一面 (無銘) は国指定重要文化財。 蒲生八幡奉納鏡銘、奉納者不明(蒲生6 代清続時代)。鎌倉期奉納銅鏡「秋草双雀

建武3年(二三三六)

日向姫木城・王子城を攻める。 蒲生九代直清、島津貞久に従い、南朝方の

明徳年間(二三九〇~九三)

法寿寺と永興寺が創建される。

長禄3年(二四五九)

給黎(喜入)に退却する。 蒲生宣清、近郷の凶徒に攻められ

文明6年(一四七四)

蒲生、北村とある。 に蒲生」「豊州(季久)御持城」の内に 『文明六年行脚僧雑録』に、「給黎

量外が開いた名刹。通幻十哲の一人、

卍永興寺跡 (現:蒲生小学校

寺となり、跡地は蒲生小学校運動場と の石屋真梁らとともに通幻門下十哲の 研さん修養を積み、鹿児島福昌寺開山 の開山であった通幻和尚の弟子となり、 基で、開山は清寛の叔父で正曇の弟で なっています。明徳年間、蒲生清寛の開 ある量外聖寿和尚です。曹洞宗惣持寺 した。応永23年(1416年)1月6日、 分は京都・一部は兵庫の旧国名)永沢寺 派に属し、寺禄五四石余、七堂の伽藍を 人に数えられるほどの名僧となりま し、近郷に末寺を多く持つていました。 量外は早く仏門に入り、丹波国(大部 大定山護法院永興寺は明治2年に廃

蒲生八幡神社开

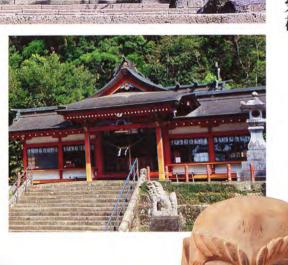
町役場◎

(※三国名勝図会をもとにCG再現したものです)

蒲生八幡神社

明応4年(四九五)明応4年(四九五)明応4年(四九五)

御祭神 仲哀天皇、応神天皇、神功皇后御祭神 仲哀天皇、応神天皇、神功皇后



双雀文様」一面のほかに、116面の銅瀬生八幡神社は、保安4年(1123年)、蒲生に移ってきた初代領主・蒲生年)、蒲生に移ってきた初代領主・蒲生年)、蒲生に移ってきた初代領主・蒲生年,社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、国指定重要文化財の銅鏡「秋草社には、保安4年(1123年)、第



銅鏡「秋草双雀文様」一

鏡が所蔵されています。

蒲生町前史

大永3年(二五二三)

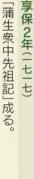
漆·愛宕山に庚申塔(経塚)建立。

弘治3年(二五五七)

比志島美濃守国守が任命される。 蒲生家が滅亡し、蒲生初代地頭に

慶長5年(一六〇〇)

阿多長寿院盛淳ほか多くの蒲生衆 わりとなって討たれた蒲生地頭 関ケ原合戦では島津義弘の身代



漆下に田の神造立。 享保3年(二七一八)

木曽川治水工事。 宝暦4年(二七五四)

明和5年(二七六八)

下久徳三池原に田の神造立。

天明4年(一七八四)

郷制が施行される。

明治4年(二八七二) からは都城県姶良郡に所属。 廃藩置県、7月に鹿児島県姶羅郡、11月

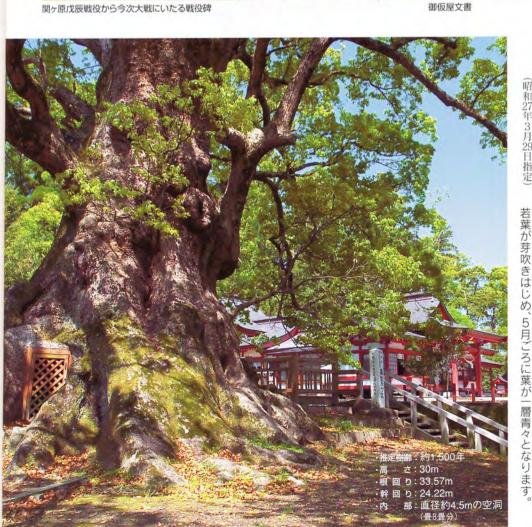


御仮屋文書

国指定特別天然記念物 蒲生のクス (昭和27年3月29日指定)

五〇〇年の時を見守り続ける巨樹。

巨木調査の結果、日本一の巨樹であることが立証されました。 指定されています。また、昭和63年度に環境庁が実施した巨樹 国天然記念物に、昭和27年3月29日には国特別天然記念物に 蒲生のシンボルである「蒲生のクス」は、大正11年3月8日に 四季によって表情を変化させる大クス。4月上旬ごろから



明治5年(二八七二)

良郡第53大区1~4小区(蒲生郷)となる。 鹿児島県に編入。大区小区制に変わり、姶

明治10年(二八七七)

明治22年(二八八九) 7月22日、郡区町村編制法制定。 明治1年(二ハ七八)

男村・漆村が合併し、蒲生村が発足。 町村制の施行により、姶良郡上久徳村・下 久徳村·米丸村·北村·久末村·西浦村·白

3月2日、林学博士・本多静六が「蒲生の 正横綱」に位置付ける。 学造林学教室編纂)の中で日本一の「東の クス」を「大日本老樹番附」(東京農科大 大正2年(二九二三)

4月8日、「銅鏡秋草双雀文様一面」(無銘)

大正7年(コカーハ)

蒲生八幡神社蔵)、国重要文化財(工芸品

に指定される。





往時を偲んでいます。



御仮屋門

漆の庚申塔

下久徳の田の神



3月8日、「蒲生のクス」、国天然記念物に

大正11年(1九二三)

指定される。





美しい町割景観。

豊かな歴史ある町です。 本町は、県下でも数少ない薩摩古流

町割としての道(西馬場、辻馬場など) 蒲生郷の麓は、地形的特徴を持つ地に ます「麓」と呼ばれる武士集落としての の兵法に基づく美しい町割が残る自然 としてイヌマキのある武家門を配し がほぼそのままに残り、石垣や生け垣 町割となり、また、歴史的遺構としては、 求められ、移転整備されたものです。 れ、二つの川を外堀のように利用した なかでも麓の集落が二つの川に挟ま 江戸時代の薩摩藩独自の制度であり



(※上図をもとにCG再現したものです)